

いずみの園そのだより

vol. 75
春号
2019.4.22



信望愛 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大なるものは愛である。 コリントの信徒への手紙 I 13:13

基本理念
神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする
●アメニティ(快適主義) ●ヒューマニティ(人間主義) ●ローカリティ(地域主義)



住み慣れた地域で
いつまでも、共に生きる

「生活介護 いずみの丘エステル」ご利用者と花見

先ずは、行政や医師会が取り組んでいる在宅医療介護連携支援センターの事業展開を注視するとともに、自らも、有資格者による介護に特化した有償ボランティアの育成など、手の届くところから始めたいと思います。

こうした地域密着型の施設サービスを推進することが、この世に生を受けているだれもが、平等で幸せな生活を営むことができる社会づくりとなり、更には、いずみの園が具体化に向けて積極的に取り組まれている、共生社会の実現のための一助となればと願っています。

また、在宅福祉の推進を図ろうと、宮崎の「かあさんの家」や熊本の「われもこう」が、空き家を活用して取り組んでいる看取り介護を、在宅においても実施できるように看護小規模多機能型介護サービスや、訪問看護サービスなどを連携させた在宅看取り介護サービスのあり方について、検討しているところです。

私の仕事の専門は地域福祉・在宅福祉を推進し、福祉コミュニティを再生することでしたので、地域密着型介護施設の制度設計には非常に興味がありました。歩いて行ける距離にある施設、我が家が見え、地域の声が聞こえる施設として、地域住民に密着した介護サービスの提供や住民啓発が可能であるだけでなく、施設そのものが地域福祉の活動拠点になれるからです。

私の仕事は地域福祉・在宅福祉を推進し、福祉コミュニティを再生することでしたので、地域密着型介護施設の制度設計には非常に興味がありました。歩いて行ける距離にある施設、我が家が見え、地域の声が聞こえる施設として、地域住民に密着した介護サービスの提供や住民啓発が可能であるだけでなく、施設そのものが地域福祉の活動拠点になれるからです。

「地域密着型サービス」に取り組んで



当法人 監事
特定非営利活動法人
福祉の里なかつ応援隊
理事長

武下 英二

2019年度 法人本部事業計画

1. 基本方針 『社会保障制度改革 地域共生社会

—誇りと責任をもって福祉のまちづくりへ』

ここ数年来、社会保障制度改革の中で地域包括ケアシステム、地域共生社会が続けて打ち出されてきました。多世代交流、多機能型の福祉拠点の整備推進を図り、住み慣れた地域で最後まで暮らせる地域社会づくり、高齢者も子どもも障がいのある人も、みんなが公平に安心して暮らせる福祉のまちづくりが目標です。ところが現実には、地方自治体も社会福祉法人もその対応が進んでいないのが現状です。

団塊の世代が後期高齢者に入る「2025年問題」から、さらに昨年10月、国は高齢社会がピークを迎える「2040年問題」に向けた対策本部を設置しました。2040年には人口は1千5百万人減り1億1千万人になりますが、(2015年対比)生産年齢人口(15～64歳)は1,600万人減、高齢者人口は570万人増となります。4千万人の高齢者を6千万人の現役が支える時代です。子ども対策や障がい福祉も含めて社会保障制度の継続に危機感が生まれています。それが、2040年問題です。

2040年対策本部は①健康寿命延伸②医療・福祉サービス改革③高齢者雇用④地域共生を重点目標にしました。医療福祉関係では効率的で質の良い共生型サービスの実現、AI、ICT、ロボットの活用等生産性の向上、法人の提携、合併、組織マネジメントの強化、人材の確保を挙げています。また、大島一博老健局長は12月18日の関係会議で「もはや地域づくりができないと介護保険サービスは機能しない」と行

政や地域の福祉のまちづくり、地域づくりを強調しました。

いずみの園は2000年介護保険施行以来、アメニティ（快適サービス）、ヒューマニティ（人権尊重）、ローカリティ（地域密着）を三つの目標として地域の福祉拠点を目指しました。2002年障がい者生活支援センターエマオ開設、2007年かきゼデイサービスの隣に学童保育ピーター事業開始、2010年24時間サービスコールセンター、小規模多機能事業開始、2011年障がい児の日中一時支援事業開始、そして2012年、「いずみの園新5か年プラン」を策定し、中津総合ケアセンターに名称変更しました。高齢者・児童・障がい者の共生型サービス事業に着手、2013年障がい者就労支援事業、2015年サマリア館が完成し、児童発達支援放課後デイ、地域子育て支援センター事業開始、生活困窮者対策等の地域公益課設置、2016年障がい者生活介護、2017年県内初の障がい者等基幹相談支援センターと地域に向けた事業を展開してきました。

2019年度事業団・いずみの園の基本方針として「社会保障制度改革、地域共生社会—40年の歴史に誇りと責任をもって福祉のまちづくりへ」としました。地域共生社会を目指して、行政を始めこれまで以上に福祉関係、ボランティア団体、自治会、民生児童委員、医療、学校、消防、警察、商工会議所、商店街等地域と連携を強化し、福祉のまちづくりに努めていきます。

2019年度 いずみの園事業計画

1. 基本方針 『社会保障制度改革 地域共生社会

—40年の歴史に誇りと責任をもって福祉のまちづくりへ』

2. 重点課題

①福祉のまちづくり構築

- ・福祉のまちづくりの概要、方向性等検討
- ・いずみの園事業の総合的調整（まちづくり調整課）
内部の連携、調整
地域に向けたアピール、リーダーシップ
各界、関係団体との連携、協力
- ・包括的、総合的な相談支援体制の検討
地域包括支援センター、基幹相談支援センター、エマオ
介護保険サービスセンター、今津SC
共生サービス事業部、地域公益課
- ・生活支援コーディネーター（地域支えあい推進員）の研究
- ・地域公益課 生活困窮者 引きこもり 就労支援
- ・認知症対策 オレンジカフェ
- ・子ども子育て支援 子ども食堂
- ・在宅高齢者事業研究班 空き家対策

②共生サービス事業部の推進

- ・グループホーム「ハレルヤ」事業
- ・中津市障がい者等基幹相談支援センター事業
- ・障がい者就労継続支援事業「シャローム」
- ・障がい者生活介護「エステル」

③人材確保、働き方改革の推進

- ・WLB、メンタルヘルス計画の推進
- ・介護の仕事の魅力発信、PR活動
アクティブシニア（高齢者）、若者、
子育て世代
小中高生介護教室、体験学習教室
- ・韓国、フィリピン、ベトナム外国人
の導入
外国人介護人材受入環境整備事業

④国際交流、グローバル視点の推進

- ・欧米、アジアとの交流を深めグローバル意識の育成、
相互の福祉、介護の向上を図る
- ・ソウル（スンシルサイバー大学、韓端大学）、晋州（国際大学、社会福祉法人道山）との相互訪問、人材交流を行い人材導入を進める

⑤本館建築準備委員会の設置

- ・22年建築を目標にイメージ等研究に着手
（2月に1回程度）
- ・先進モデル施設視察研修
- ・個室ユニット
- ・AI、ICT、ロボット、省力、介護の生産性
- ・一級建築士など専門家の招聘



2018年度第3回理事会、及び第2回臨時評議員会の開催報告



理事会の様子



評議員会の様子

(法人本部事務局)

2018年度第3回理事会が3月15日(金)13:00よりミーティングルームで理事9名、監事2名の出席で行われました。冒頭理事長からの挨拶の後、2018年度補正(第2次)予算案、2019年度の事業計画及び予算案、各種規程の改正案についてそれぞれ動議が諮られ、全会一致で決議されました。その後、障がいグループホーム工事完了、ひかり館改修工事完了の件等合わせて6項目について報告と意見交換が行われました。

そして3月23日(土)14:00から「いずみ館」で2018年度の第2回臨時評議員会が行われました。8名の評議員と2名の監事他が出席し、今回は2018年度補正(第2次)予算、2019年度の事業計画及び予算、役員等報酬規程の改正案について上程され、いずれも全会一致で承認されました。その後数点の報告事項について質疑応答が行われ、閉会しました。

人事関係

2018年11月24日以降

① 異動役職者

2019年 4月 1日	河野 英之 瀧澤由美恵 戸川 正洋 樹田はるか 加来久仁弘 古場 祥子 工藤 一憲 須崎 敏治 栗原 洋一 松井 学 友清 賢 橋本 晃一 中島 喬生 今長 澄江 藤田 恵子	かきぜサポートセンター 在宅サービス事業部 特別養護老人ホーム 特別養護老人ホーム かきぜサポートセンター 総務部 総務部 かきぜサポートセンター かきぜサポートセンター 在宅サービス事業部 共生サービス事業部 特別養護老人ホーム かきぜサポートセンター かきぜサポートセンター 在宅サービス事業部	寄り合いセンター 介護保険サービスセンター 介護課 介護課 デイサービスかきぜ 経理課 総務課 かきぜデイサービス課 中央サポートセンター デイサービス課 就労支援事業課 相談課 寄り合いセンターいずみ かきぜグループホーム 介護保険サービスセンター(今津)	課長 課長 総括主任 主任 主任 主任 主任 課長 課長 課長 課長 主任 主任 主任
-------------	---	---	---	--

② 異動一般職

2019年 1月 1日	上坂 尚子	かきぜサポートセンター	かきぜグループホーム	介護員
2019年 3月 1日	橋内 尉至	在宅サービス事業部	デイサービスふれあい館	介護員
2019年 4月 1日	金ヶ江くるみ 荒川 幸恵 三原 萌華 白石佐奈枝 中山かおり 松本 恵美 戸次 広美	特別養護老人ホーム かきぜサポートセンター かきぜサポートセンター 在宅サービス事業部 在宅サービス事業部 在宅サービス事業部 在宅サービス事業部	看護課 寄り合いセンターいずみ 寄り合い・かきぜグループホーム兼務 ふれんど館・クリニック兼務 デイサービスふれんど館 訪問介護課 訪問介護課	看護師 介護員 介護員 介護員 看護師 介護員 サービス提供責任者 ヘルパー

③ 新採用職員

2018年12月10日	笠原 可苗	特別養護老人ホーム	介護課	介護員
2018年12月28日	田口 亮	共生サービス事業部	ワークセンターシャローム	職業指導員
2019年 2月 1日	久恒 奈美	かきぜサポートセンター	訪問看護課	作業療法士
2019年 4月 1日	高榎 未来 坂本 美来 山本 慎也 阿部笑美那 荻 祐奈 大木本侑子 佐久間英二 山本 修 樹田 元子 堂本 初美	特別養護老人ホーム かきぜサポートセンター かきぜサポートセンター 特別養護老人ホーム かきぜサポートセンター 共生サービス事業部 共生サービス事業部 共生サービス事業部 共生サービス事業部 共生サービス事業部	介護課 かきぜグループホーム 介護課 児童サービス課 生活介護いずみの丘エステル いずみの丘グループホームハレルヤ いずみの丘グループホームハレルヤ いずみの丘グループホームハレルヤ いずみの丘グループホームハレルヤ	介護員 介護員 介護員 介護員 児童指導員 生活支援員 世話人 夜間支援員 夜間支援員 世話人・生活支援員兼務 世話人

(以上2019年4月22日まで)

いずみの園創立40周年を記念する一連の事業が全て終了しました 『シンポジウム』『ワークショップ』『ワーキングショップ』開催報告



フードブースの様子



会場の風景 (サマリア館1F)



ワークショップ (ハミングバード)

いずみの園は2018年に、創立から40周年の節目を迎えましたが、その記念事業の一環として、本年1月25日(金)に、中津市にある「リル・ドリーム」にて、「共に」〜子ども、高齢者、障がいのある人等が共に支え合い暮らせるまちづくり〜と題したシンポジウムを開催し、約120名の方にご来場いただきました。また、1月27日(日) 10:00〜12:00、中津市蛸瀬にある「福祉の里センターサマリア館」にて、「サマリアひろば」と題したワークショップが開催され、こちらには100名以上の方にお越しいただきました。当日の様子を、写真と共に振り返りたいと思います。



シンポジウム中の様子



主催者代表あいさつ (富永理事長)

会場全体の様子

福祉のまちづくりへの取組

—生活しやすい中津づくり—

第6回（最終回）：かきぜサポートセンター



「いずみの園」は2013(平成25)年、保育・子育て支援事業、介護保険、障がいサービス事業を包括的に提供する「中津総合ケアセンターいずみの園」と名称を改めました。昨年度の事業計画の中にも『地域との連携—福祉のまちづくり』を重点目標に掲げ、“豊かさ”、“楽しさ”、“生活のしやすさ”のまちづくりに貢献する『中津総合ケアセンターいずみの園』の取組を6回にわたり連載します。



おや子でリズム遊び

中津市地域子育て支援センターホールでは、子育て中の親子が、気軽に集い交流できる場所の提供や、子育てや発達に関する相談・情報提供の他に、親子で楽しめる定期行事や講座を行っています。子育て支援センターがある建物の中には、高齢者のデイサービスや児童クラブがあり、高齢者の方は愛くるしい子ども姿に笑顔をもらい、児童クラブの子どもたちは、自分より小さな子どもにも優しく接し、遊ぶ姿がみられます。定期行事や講座には、音楽に合わせて楽しむ「おや子でリズム遊び」や、妊娠、出産、育児へと切れ間なく子育て支援ができるよう



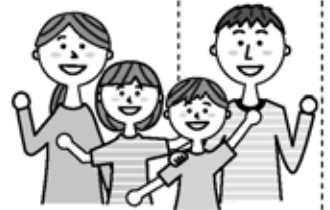
児童サービス課
課長 今永 弘枝

地域で子育て支援

に、「お腹の中からはじまる子育て講座」や「産後ママの為の自力整体」なども行っています。子育て支援センターまで出向く事が難しい、中山間地域の本耶馬深・耶馬深・山国地域には、出張広場を開催し、子育て支援を行っています。過疎・高齢・少子化に、核家族化が進行する中、子育て親子が孤立することなく、地域の中で安心して子育てができるまちづくりをと考えています。※行事の予定や活動の様子は、中津市の子育て専用サイトや、子育て支援センターホールのFacebookでも見ることが出来ます。



お母さんの為の自然ケアスクール



他施設職員とご利用者宅を訪問している様子



ステーション内にて

「2025年問題」や「2040年問題」をご存知でしょうか？簡潔に申しますと、2025年問題とは団塊の世代が全員75歳以上になり、超高齢社会に突入します。2040年問題とは1・5人の現役世代が1人の高齢者を支えている社会が到来します。そこで起こりうる様々な課題に対して対策が進められているところです。「地域包括ケアシステム」の早期構築をはじめ、高齢者に限らず全ての人の支え合いを目標とした「地域共生社会」の実現が目指されています。そこで私たち看護職の果たす役割は、切れ目のない看護の提供や医療と介護の連携、多職種との連携強化です。そこで中津市内に勤務する現役病院看護師と訪問看護師や施設勤務看護師が、互い



訪問看護課
課長 有隅たまき

地域社会資源として果たす訪問看護ステーションの役割

の職場で見学研修をしています。今年度は当ステーションの看護師も全員この研修に参加しました。大きな収穫としてはお互いの立場を理解できる、顔が見える関係性ができ看護職間の連携が深まる、実際に体験し具体的な現場のイメージができることで病院医療から在宅医療完結型へと動かしやすくなると感じています。また、健康寿命を延ばす目的で市が主催する「元気いきいき週一体操」に当ステーションから作業療法士を派遣し、効果的な運動の必要性を指導しています。来るべき時代に向けて、微力ながらもこの地域の社会資源の一つとなるように職員一同頑張りたいと思います。



地域で活躍しています



いずみの園と 中津教会の繋がり



シニアレジデンス いずみの森
森長 森 光徳

「中津総合ケアセンターいずみの園」が開設されたのは、高齢者の孤独死がクローズアップされた1978年のことです。50床の特別養護老人ホームとして、中津教会のお祈りの中より教会の枝としてグレース保育園につき、日本基督教団中津教会をはじめ多くの九州教区の教会の支援を頂き開設されました。

「中津教会」は中津市殿町にあるプロテスタントの教会で、毎週日曜日に礼拝を通して一人でも多くの方々にイエス様の御心を伝えるため、1897年キャラハン宣教師から始まり12年間宣教活動を続けています。

「いずみの園」では、現在も施設内の礼拝や毎年行われるいずみの園フェスタ、教会のバザーなどでは、いずみの園の職員が焼きそばを作り、売りに上げて貢献するなど教会との繋がりを深めています。また、九州教区では毎年「いずみの園デー」として礼拝の中でいずみの園の為に祈り、献金する日を設けています。これらも中津教会といずみの園は二人三脚の様に変わらぬ絆を持ち続けて行きたいと思っています。



焼きそば販売中の様子

韓国語講座の開催

「中津総合ケアセンターいずみの園」では海外との積極的な交流を行っており、その中でもとりわけ韓国とは、積極的な人材受け入れや交流をかねてより行ってきました。

そのような状況の中で今後も韓国との交流が継続していくことを念頭に置き、職員の語学力向上が必要と考え、職員向けの韓国語講座を開催することとなりました。

第1回は2019年2月21日(木)に、いずみの園のミーティングルームにて開催し、計8名の職員が参加しました。今後は2週間に1回を目安に継続的に講座を開催していくことで、職員が韓国語に親しむきっかけとなればと考えております。



講座中の様子

(経営企画課)

観梅ドライブに行ってきました

中津市蛸瀬にある「デイサービスセンターかきぜ」では2月18日(月)から2月26日(火)にかけてグループ毎に、福岡県築上町にある「網敷天満宮」へ観梅ドライブに出かけました。今年の2月は暖かく、ゆっくりと観賞することができました。



とても綺麗でした

「網敷天満宮」は、「デイサービスセンターかきぜ」から自動車です約30分のところにあります。この「網敷天満宮」は梅を愛した菅原道真公が主祭神となっており、社殿の周辺には約1,000本の梅の木が植えてあるそうです。

陽が降りそそぐ中、ご利用者の方は「皆で見れてよかったね」、「こんなに梅の木が植えてあるのは初めて見た。」など、とても喜ばれていました。(デイサービスセンターかきぜ)

ひな人形飾り

「中津総合ケアセンターいずみの園」の各事業所にて、毎年端午の節句の前後にひな人形を居室や広間に飾ります。

ひな祭りの由来は諸説あるようですが、女子の「人形遊び」と「節句の儀式」とが結びつき、全国に広まり飾られるようになり、この遊びである「雛あそび」が節句としての「ひな祭り」へと変わったという説もあるようです。

今回は「特別養護老人ホームいずみの園」のひな人形飾りを紹介します。特養では、廊下の先の見通しの良いきぼう館(本館)3番地と相談課の前の廊下に、2月下旬からひな人形を飾り付け、ご利用者の方や、来園された方の目を楽しませています。(特別養護老人ホームいずみの園)



ご利用者と一緒

『第24回ボランティア交流会』が行われました

3月1日(金)11:00より、いずみの園「地域交流ホームいずみ館」で、「第24回ボランティア交流会」が行われました。「ボランティア交流会」は、いずみの園にボランティアとして携わっていただいている方々と、職員の交流を図るために毎年行われている会で、今年は56名のボランティアの方と13名の職員が参加して行われました。



会場の風景

当日は、本当に多くの皆様に参加いただき、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。(人材育成・研修センター)

介護男子

vol.5

ここでは、いずみの園で働く男性職員を紹介します。彼らの働きぶりを通して、いずみの園の内側を少しでも知っていただければ幸いです。



介護男子
ナンバー 12



鎌倉 聖崇さん

部署名：特別養護老人ホーム
役職：介護員
年齢：19歳
好きな食べ物：焼肉



ひとこと

まだまだ未熟ですが、ご利用者と交流を深め一人ひとりのケアをしっかりと行っていききたいと思います。



介護男子
ナンバー 13

今藤 健さん

部署名：特別養護老人ホーム
役職：介護員
年齢：24歳
好きな食べ物：卵かけご飯



ひとこと

ご利用者に寄り添いながら、それを働きがいにしていきたいです。



介護男子
ナンバー 14



戸川 正洋さん

部署名：特別養護老人ホーム
役職：総括主任
年齢：38歳
好きな食べ物：鰻



ひとこと

ご利用者にとって最も身近な存在として幸せに支援できますように、チームとしてケアしていきます。



編集後記

嘉辰令月欽無極 万歳千秋楽未央
「かしんれいげつよろこびきはまりなし、ばんぜいせんしうたのしみいまだなかなばならず」と読む、平安時代の和漢朗詠集に収められた、有名な漢詩の一節です。意味を要約するなら「良い日良月を、何千年も何万年も祝っても祝いきれない、つまり大変おめでたい様子を表した詩、このことだ。」
新元号が発表された時に私が最初に連想した言葉ですが、私にとっては物心つてから初めての「元号変わり」であり、それを初めて目の当たりにし、こんなにも日本中に「めでたい」空気が広がるのかとてもうれしい気持ちになりました。新しい時代が「嘉辰令月」となるよう、日々を楽しみつつ、元気に努めてまいりたいと考えています。
(義)

4月21日はイースター（復活祭）。十字架上で亡くなったイエス様がよみがえったことを記念する日、キリスト教の三大祝祭日の一つ。
福音書を書いたマルコという人は、よみがえったイエス様の姿はどこにも描かず、イエス様と出会って一緒に生活をした土地ガリラヤへ行きなさい、そこでイエス様と生き生きと出会えますよという天使の言葉を記します。
私達は一つのがきつかけで、魂が新たにされ生きる力を得、同じ景色でも今までは全く見え方が変えられる、ということがあります。いずみの園をつくり、今もいずみの園を新しく生かす力、イースターです。

いずみの園のルーツを探る — 第5回 —

イースター

（天の使いの）若者は言った。「驚くことはない。あなた方は十字架につけられたナザレのイエスを探しているが、あの方は復活なさってここにはおられない。…あの方はあなたの方より先にガリラヤへ行かれる。そこでお目にかかれる」
新約聖書マルコ福音書16章



チャブレン 堤 健生

「いずみの丘グループホームハレルヤ」 開所式が行われました



共生サービス事業部
部長 豊田 毅士

かねてより開設に向けて準備を行っていた「いずみの丘グループホームハレルヤ」が、2019年4月1日（月）に新たな入居者をお迎えし、無事開所の日を迎えることができました。

そして翌日の4月2日（火）には、ささやかながら開所式を行いました。会場は「ハレルヤ」のリビングルーム

で、参加者はいずみの園の職員と入居者で行いました。初めに堤チャブレンによる司式、その後当法人の富永理事長の挨拶をいただきました。



入居された方も一緒に出席しました



ハレルヤ外観

「いずみの丘グループホームハレルヤ」は、障がいのある方に地域で自立した生活を提供するためのお手伝いをする施設で、定員は7名です（シヨートステイ用居室が別に1室）。入居される方の安心・安全、そして楽しみに満ちた豊かな生活を提供できるよう、職員一同支援していきたいと思っております。

居宅介護支援事業所 今津サポートセンターいずみの園 開設1周年記念イベントを行いました



在宅サービス事業部
部長 伊藤 保幸

「JR今津駅」構内にある居宅介護支援事業所「今津サポートセンターいずみの園」が、4月に開設1周年を迎えました。それを記念するイベントを3月21日（木）10:00より、今津駅前の広場を利用して開催しました。



ヨーヨー釣りコーナーにて

当日は、介護保険相談会や福祉用具展示会、高齢者疑似体験、栄養補助食品サンプルの配布、またお子様向けにヨーヨー釣りコーナーのブースを出店し、子どもからご年配の方まで約60名の方にお越しいただきました。参加された方から「とても楽しかったです。来年も参加したいです。」との感想をいただきました。



高齢者疑似体験中の様子

当日は、多くの皆様にお越しいただき、誠にありがとうございました。開設1周年を記念し、気持ち新たに頑張っていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

総務部より

2019年辞令交付式、 新入職員入職式が行われました

4月1日付で昇格となった役付以上の職員への辞令交付式と、新卒採用された5名の職員の入職式が4月1日（月）8:40から行われました。

富永理事長より各自に辞令が渡され、「新年度を迎えるにあたり、改めていずみの園の職員として自覚と誇りを持ち、良いスタートをきってほしい。地域福祉の充実のため、今年度は特に、福祉のまちづくりを目標に頑張っていたきたい。」との挨拶がありました。

最後にチャブレンのお祈りをもって式を終了し、新たな気持ちで「いずみの園」の2019年度がスタートしました。



新入職員と理事長

『いずみの園職員全体会』が開催されました

「中津総合ケアセンターいずみの園」では、毎年年度末に、次年度の事業運営方針、人事異動等を発表する「職員全体会」が、いずみの園全職員を対象として行われます。2018年度は3月29日（金）18:00より「地域交流ホーム いずみ館」にて、職員196名の参加により執り行われました。



当日の様子

会の冒頭に、富永理事長より2019年度の法人事業計画並びにいずみの園事業計画・基本方針が示されました。続いて各部責任者よりそれぞれの部の事業計画の発表がありました。次に、人事についての昇格者・異動の発表がありました。また、全体会議後には例年「職員親睦会 いずみ会」の総会があり、1年間の会の活動総括、また2019年度の新役員の紹介がありました。以上をもって年1回の職員全体会を終え、職員一同気持ちを新たに新年度へと向かいます。